

平成 29 年度 第 3 回 宇治市子ども・子育て会議 会議録

<日 時> 平成 29 年 10 月 20 日 (金) 10:00~12:00

<場 所> 宇治市役所 8 階 大会議室

<出席者> (委員:17 人出席/23 人中)

安藤会長、迫副会長、大西委員、岡本委員、小野委員、後藤委員、小林委員、谷安委員、橋口委員、稲吉委員、上西委員、岸委員、堀野委員、弓指委員、杉本委員、松井(明)委員、松井(敏)委員

(事務局:23 人)

教育部 伊賀教育部長兼副部長、瀬野教育支援センター長、
藤原教育部参事兼生涯学習課長兼生涯学習センター所長、
縄手教育総務課長、富治林学校教育課長、金久一貫教育課長、
福山教育支援課長

福祉子ども部 星川福祉子ども部長、澤田福祉子ども部副部長兼地域福祉課長、
久泉生活支援課長、寺村障害福祉課長、上道保育支援課長、
田中保健推進課長、北尾子ども福祉課長、馬場保育支援課副課長、
横山保健推進課副課長、雲丹亀子ども福祉課副課長、
山森子ども福祉課主幹、野口保育支援課計画係長、
平山保育支援課保育支援係長、岡部子ども福祉課子育て企画係長、
水野子ども福祉課子育て企画係主任、
西村子ども福祉課子育て企画係主任

(傍聴者) 0 人

<会議内容>

1 開会

【会 長】定刻になりましたので、会議を開会します。なお、本日の会議は「宇治市子ども・子育て会議の会議の公開に関する要項」に基づいて公開としています。

- ・事務局より、会議の成立確認報告及び配付資料の確認
- ・事務局より、人事異動による教育部長の紹介

2 議事

(1) 宇治市子ども・子育て支援事業計画の見直し(案)について

- ・事務局より、資料1「宇治市子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果報告書 追加資料」、資料2「宇治市子ども・子育て支援事業計画の見直し(案)について」に基づき説明が行われた。

【委員】事業者は、子どもや保護者一人一人の人権や生き方、多様性を受け入れていきたいと考えています。保護者にしても、一度は働いてみたものの、子育ての時間を大切にしたいと生き方の変更をされることはよくあります。しかしながら、宇治市では保育所から認定こども園に移行した場合、1号認定の受入枠が3%までという条件があり、在園児が2号認定から1号認定となった時に同じ施設を利用できないことがあります。1号認定全体のニーズは充足しているのかもしれませんが、個々の認定こども園における1号認定の状況については、状況が異なっていると言えます。見直し案では、こうした状況を検討することになっているのでしょうか。もし、なっていないのであれば、宇治市として一人一人の多様性を受け入れる仕組みを実現できるようにしてもらいたいと思います。

【事務局】認定こども園に関しては、保護者の退職などの理由により、委員から説明いただいたような状況が発生することは認識しています。一方、宇治市全体の1号認定の定員は、実際の利用児童数を大きく上回る状況であり、既存の施設での対応が可能です。また、各地域においては3号認定を中心に待機児童が発生していますので、現時点では、認定こども園については2号認定、3号認定を積極的に受け入れていただきたいと考えています。ただ、委員からもありましたが、新制度の趣旨である児童の成育環境を変えないという観点は重要と考えており、今後もこの件については引き続き検討が必要と考えています。

【委員】小さい頃から友達と一緒に育つという関係性があり、そこに子どもの育ちや保護者のニーズがあると思います。単に認定こども園に1号認定の定員の上限があるから継続利用できませんというのはおかしいと思います。障害のある子、発達の気になる子の継続的な見守りや受け入れという観点からも、1号認定が活用できるのではないかと思います。

【委員】保育所から移行した認定こども園での1号認定の受入枠が3%というのは、国と宇治市のどちらの基準ですか。

【事務局】宇治市の基準です。

【委員】親の就労状況に応じて、子どもが通う施設が変わるということは適切ではないと思います。宇治市全体では幼稚園に空きがあるのに、保育所に空きがないということは、本当は認定こども園というのは、幼稚園が保育を必要とする子ども、いわゆる3号認定を受け入れるということが国の意図したところではないかと思います。現状はそうならない状況なので、大きな視野を持ってどのように取り組めば良いか、考えていただきたいと思います。

【事務局】委員のご意見は事務局としても同じ認識です。子ども・子育て支援新制度の趣旨は、子どもの成育環境を大人の都合で変えない、適切な環境を連続して提供していくことが最大の良さとしてされています。ただ、宇治市では地域によって保育ニーズに偏在があり、待機児童がなお発生していることからすると、新制度の趣旨を目的どおり達成するには、まだ少し時間がかかると思っています。こうした内容は、今回の計画の見直しの案では読み取ることが難しい

かもしれませんが、今後も教育・保育施設の利用状況、保護者の利用希望、事業者の意向などを踏まえて検討していきたいと考えています。この点については、計画の策定時から一貫していると考えております。宇治市としましては、子どもにとって最善となるよう、幼児期の学校教育・保育のさらなる充実に努めておりますが、不十分な点もあると思います。今後もこうした目標の実現に向けて努力しますので、ご理解いただきたいと思ひます。

(2) 宇治市公立幼稚園の今後のあり方について

・事務局より、資料3「宇治市公立幼稚園の今後のあり方について」に基づき説明が行われた。

【委員】宇治市の財政状況などを考えると、どこかで決断する必要があるとは思ひますが、実際、大久保幼稚園の入園希望者から困っていると伺っています。最終的に園児の多い園が残ったのであれば、園児数で区切ることは仕方がないと思ひつつ、神明・東宇治・木幡という、市の東側にある幼稚園が残り、唯一、西側にある幼稚園から廃園していくのはバランスが悪いと思ひます。もっと、長期的に取り組む必要があつたのではないでしようか。

【事務局】今回、4園体制から3園体制へ再編するということですが、ご意見のとおり中長期的に検討を行っており、今後もより良い幼児教育が提供できるような形で様々な方策を考えています。大久保幼稚園の廃園についても丁寧に説明をさせていただきながら進めていきたいと思ひています。

3 意見交換（グループワーク）

・事務局より、意見交換の進め方について説明が行われた後、3つのグループに分かれて意見交換が行われた。

4 その他

・事務局より、次回会議の日程調整について説明が行われた。

5 閉会